

人権啓発センター だより

平成28年7月

No.31



雑感

高知県では1969(昭和44)年7月10日「同和対策事業特別措置法」が施行されたことにちなんで、毎年7月10日から20日までを「部落差別をなくする運動」強調旬間と定めている。

同和問題についての県民一人ひとりの理解と認識を深め、同和問題の早期解決を図り、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくし、一人ひとりの人権が尊重されることを目的にしている。期間中に、映画や講演会、新聞・テレビ・ラジオ放送など様々な啓発事業を実施している。

本センターによる啓発事業も今年で43回目を

迎えるが、全国的にも、差別落書き、差別文書、インターネット上の「全国部落調査」復刻版の発行と販売、身元調査、戸籍謄本の不正取得、土地差別調査、結婚や就職差別など、人権を侵害したきわめて悪質な差別事件が依然として後を絶たない。

残念ながら「部落差別解消推進法」は、継続審議となってしまったが、これからも部落差別をなくするための取組みを粘り強く、緻密に続けていかなければならない。

(研修啓発課 山本)

人権あれこれ



「ルールは人を守るもの」

最近同僚の「ルールは人を守るためにある。」という発言を聞いて、ハッとした。考えてみればそのとおりである。

文化・社会が発展し、多様化し、そのルールも複雑化してきている。本来ルールは人を守るものであったはずが、人を縛り付ける存在に変わってしまったように思っていた。

これまで建物の使用規則は建物を守るもの、公園の使用規則は公園を守るもののように受け止めていたように思う。よく考えると次に使用する人が安全に安心して使用するためのルールであるところへ行きつく。

ハイน์リヒの法則というのがある。1つの大きな事故が起こる手前には、29ヒヤリハットの瞬

間がある。(ひやりとする。ハッとする出来事) また、その手前には300ものこれくらいはいいだろうという事象がある。「自分や他人を守る」ために、「これくらいのことで」と済まさずルールを守る習慣を身に着けたいものである。



(研修講師 池本)



じんけんライブラリー

一押し本

『ひとりじゃないから、大丈夫。』

織田 有里子 ／著 鳳書院 (1,200 円＋税)

全身の筋肉の萎縮が徐々に進行する超希少疾病の一つ「遠位型ミオパチー」。22 歳でこの病気の宣告を受けた著者は、家族、恋人、友人に支えられ、結婚し一児の母になり、その後、車椅子生活となった。患者会 PADM (パダム) を設立するとともに、バリアフリー情報サイト「車椅子ウォーカー」を運営し、障がい者の視点を生かしたバリアフリー施策と人々の意識改革「ハートのバリアフリー」を訴える。健常者と障がい者が互いに認め合い、安心して生活できる社会を目指して奮闘する著者の奇跡。

(企画啓発課 松本)



ちょっといい話



女子高生サポートセンターColabo (コラボ) という一般社団法人があります。この団体は、「すべての少女に『衣・食・住』と関係性」をということをスローガンに、家庭や学校に居場所をなくして都会を彷徨する少女たちを保護、支援して搾取労働に行き着くことを防ぐ働きをしています。

この団体を立ち上げたのは、仁藤夢乃さん (1989 年生まれ、第 30 期東京都青少年問題協議会委員) という方です。

仁藤さん自身も家庭・学校に居場所を失い、人生に絶望し、中学生の頃から街を彷徨う生活を送っていました。そうした彼女の転機となったのは、予備校で出会った故阿蘇敏

文氏 (牧師・講師) との出会いでした。阿蘇さんは、彼女の特異な言葉遣いや見た目などに対する偏見は抜きに、一人の人間、個人として接してくれたそうです。彼女は、阿蘇さんや仲間との交流により社会や大人に対する信頼を回復し、人生に希望を持てるようになりました。その後の彼女の歩みが Colabo の立ち上げにつながりました。

一人の人との出会いが、彼女の人生を大きく変えました。出会いの大切さを改めて感じます。

『難民高校生』仁藤夢乃著／英治出版より
(事務局長 中山)



事業報告

●平成 28 年度高知県市町村人権教育・啓発担当者連絡協議会

- ・5月12日（木） 西部（宿毛市）参加者： 9名
- ・5月16日（月） 中部（高知市）参加者：29名
- ・5月19日（木） 東部（安田町）参加者：14名



法務局、人権課、人権教育課、当センターからの事業説明のあと、土佐町から全会場で平成 27 年度に行った人権啓発モデル地区事業に関する発表をしていただき、この他に、西部は土佐清水市、中部は香川県東かがわ市、東部は南国市より事例発表がありました。約 1 時間の班別協議では、「他市町の取組事例が具体的に参考になった」「継続の中にいかに新しい視点や工夫を加えていくかという点において考える事ができた」など活発な意見交換がされました。

●平成 28 年度人権啓発研修ハートフルセミナー in 室戸市

- ・上映会&講演会「こどもこそミライーまだ見ぬ保育の世界ー」

5月29日（日）13時～15時45分

参加者：96名



映画上映会の前には、子どもたちが室戸市人権啓発課長や室戸市長、安倍総理大臣等に扮した、「子どもにわか」の上演がありました。「人権ってなんでよ？」「目に見えるもんでもないきねえ。そこいらへんに人権はうじゃうじゃおるけんど」「こどもこそミライーというなら、もっと先の見える未来にしてもらわんと」など、絶妙の掛け合いで愛嬌たっぷりに演じました。

映画上映後の講演では筒井監督が、「子どもの世界を多くの人に見てもらいたい。保育には答えがないとよく言われるが、答えは子どもの中にあると考え映像にしている」「長い目で子どもたちを見守り、大人が環境を整えること。子どもたちの育つ力を信じて待つ保育が大切だ」などと話されました。

（企画啓発課 宮田）

Information お知らせ



事業・イベントの紹介

高知ファイティングドッグス冠協賛試合を開催します。

(平成 28 年度 スポーツ組織と連携・協力した人権啓発活動事業)

●日 時：2016 年 7 月 24 日 (日) 午後 6 時 試合開始

※雨天の場合は中止

●試 合：高知ファイティングドッグス

VS 西アフリカ選抜チーム

●場 所：高知球場 (高知市大原町 158)

●参加費：無料

●申込み：不要



いじめ等の身近な人権問題について、県民のみなさまが関心を持ち、理解・認識を深めてもらうために人権啓発活動の一環として冠協賛試合をします。

今年度は、西アフリカ選抜チームとのエキシビジョンマッチです。6 月 3 日にヘイトスピーチ解消のための法律が施行されました。ヘイトスピーチは人々に不安感や嫌悪感を与えるだけでなく、人としての尊厳を傷つけたり、差別意識を生じさせることになりかねません。この機会が外国人の人権について考えてもらえるきっかけになればと願っています。

観戦料は無料ですので、ご家族等お誘い合わせの上、ぜひお越し下さい。

来場者には啓発グッズのプレゼントもあります。



○人権啓発センターオリジナル

「鉛筆で書いて、消しゴムで消せる！」

村岡マサヒロ クリアファイル」

○啓発冊子

★ さらに、アンケートにご協力いただいた方には、先着 300 名様にオリジナルマグカップ (100 個) か、高知ファイティングドッグス選手のサインボール (200 個) を 1 人につきどちらか 1 つと交換します。

(企画啓発課 佐伯)

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp HP : <http://www.kochi-jinken.or.jp>